



©まなびの広場 令和8年4月10日発行
偶数月10日発行
令和4年6月10日創刊 通算No.24

まなびの広場

— 子どもの未来を共に考える —

VOL.24

4
2026



編集よりご案内

本号より、日本女子大学名誉教授の定行まり子氏による短期連載が始まります。本号ではコロナ禍の日本とスウェーデンの保育施設の対応の違いから、環境基盤を重視するスウェーデンでの「子どもの権利」を守るための取り組みについてご執筆いただいています。

公益認定の申請に向けての準備状況のご報告、令和8年度事業計画案、収支予算案等の決議を行った会務報告を掲載しています。さらに、3月より配信しているオンデマンドコンテンツをご紹介します。

令和7年度にECEQ[®] コーディネーター養成講座を受講し、資格を取得された、北海道文教大学准教授の渡邊堯宏氏より、ECEQ[®] コーディネーターの視点から養成校教員として感じたECEQ[®] の可能性をご執筆いただきました。

CONTENTS

短期連載①

幼児教育を支える空間・環境—スウェーデンの建築・都市計画から—

■ 定行 まり子氏 (日本女子大学 名誉教授)

(一財)全日私幼研究機構理事長からのご報告

保育の矜持

■ 安家 周一 (一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長)

理事会・評議員会の会務報告

養成校教員からみた、ECEQ[®]の構造とECEQ[®]コーディネーターの役割

■ 渡邊 堯宏氏 (北海道文教大学人間科学部こども発達学科 准教授)

ECEQ[®] Hot News Vol.7

【令和8年3月2日開始!】

令和8年度第I期オンデマンド研修68コンテンツが配信中です。

機構からのお知らせ

●令和8年度 賛助会員企業について

●令和8年度 賛助会員(園児の保護者等)入会について



コロナ禍が可視化した日本とスウェーデンの違い

日本女子大学 名誉教授／定行 まり子

はじめに—建築は「教育の一環」

幼稚園や学校の建築は、子どもたちが学ぶ単なる物的な器ではありません。その空間構成、光の入り方、空気の流れ、そして屋外とのつながりそのものが教育の一環であり、スウェーデンの就学前学校（1～5歳）のナショナルカリキュラムにおける評価の方法は「個人」ではなく「環境」を評価します。また、幼児期の子どもは環境から強い影響を受けることから、住まいの近くにどのような園があり、園庭があり、地域にどのような緑や公園があるのか、こうした建築・都市計画の条件は、子どもの日々の経験を形づくり、その成長の質を左右します。この連載では、建築・都市計画の視点から幼児教育を支える空間と環境について、スウェーデンの取り組みを手がかりに三回にわたって考えたいと思います。

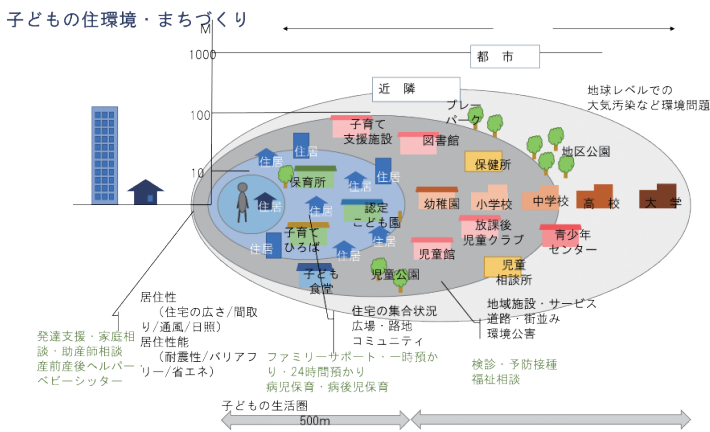


図 建築・都市計画からみた子どもの環境

第一回はコロナ禍を通じて浮かび上がった日本とスウェーデンの根本的な違い、第二回は室内の空間・空気の質と換気の問題、第三回は屋外空間の質と都市計画における子どもの環境を取り上げます。

■日本の「閉じた」教室、スウェーデンの「開いた」森

2020年4月、緊急事態宣言が発出され、日本では幼稚園が休園となり、多くの保育施設でも登園自粛が広まりました。公園の遊具にはテープが巻かれ、子どもたちは家に閉じこもりました。「子どもの遊びは不要不急なのか」——そんな問いが脳裏をよぎりましたが、それ以上の想像を展開する余地はありませんでした。誰もが消毒に徹していました。その後も感染の波は繰り返し、2022年のオミクロン株流行時には、全国で多くの保育

施設が全面休園する事態になりました。

ところが同じ2020年、スウェーデンでは就学前学校（1～5歳児が通う「Förskola」）が一日も閉まることはありませんでした。雨の日も雪の日も、子どもたちは外に出ていました。政府の公衆衛生庁は屋外活動の安全性を明確に示し、現場はそれを日々の保育実践として遂行しました。ウプサラ市の保育園では、コロナ初期に屋外での教育活動を増やした経験について、担当教員が「子どもたちはいつもより健康であり、屋外での教育も屋内と少なくとも同じくらいうまく機能した」と述べています。ただし、これは現場報告であり、健康状態の改善については、屋外活動の増加に加えて症状のある子どもの早期帰宅という運用強化も要因として示されています。2020年3月から6月にかけて、スウェーデンの就学前施設に在籍する子どもの死亡者はゼロであったと報告されています（Ludvigsson et al., *NEJM* 2021）。また、スウェーデンでは社会的距離の確保が推奨されましたが、マスク着用は推奨されていませんでした。日本が施設を閉じて子どもを守ろうとしたのに対し、スウェーデンは施設を開き続け、屋外環境を最大限に活かすことで子どもの日常を守りました。対照的な選択でした。

■2023年、スウェーデン・ウプサラ市へ

コロナ禍を機に、学生たちとともに保育室の換気と子どもの活動について研究を進めていた筆者は、2023年8月、ウプサラ大学での研究歴と現地の就学前学校での教職経験を持つ浅野由子氏（現・日本女子大学准教授）のコーディネートにより、ウプサラ市の視察を開始しました。以降、2024年、2025年と訪問を重ね、現地の園でのヒアリングや大学・行政担当者との意見交換を継続しています。

浅野氏がコロナ以前に勤めていた私立の就学前学校を訪ねると、到着するなり子どもたちと森へ出かけました。この園は集合住宅の住棟一階を保育室としており園庭は限られていますが、隣接する森の一部が日常の遊び場として確保されています。コロナ禍でもまったく変わらず、この森で過ごしていたといいます。「大人たちもコロナ禍ほど外に出ることを意識した時期はなかった」と、現地で何人もの方から伺いました。



【写真】集合住宅一階の就学前教育と隣接する森（ウプサラ市）

ウプサラ大学教育学部のカタリーナ・グスタフソン教授にもお会いしました。教授は、都市の高密度化が進む中で子どもの屋外環境の確保がますます困難になっている実態を研究されており、園庭の面積だけでなく、地域全体の都市計画の中に子どもの環境を位置づけることの重要性を力説されています。園庭を持たない都心部の園が、公園や緑道、街区の空地を日々組み合わせながら「保育のための場所」を計画的に確保する営みは、園庭不足に悩む日本の都市部の保育にも直結する課題です。この研究については第三回で詳しく紹介したいと思います。

■「子どもの権利」に着目して

なぜ、これほどまでに国による対応の差が生まれたのでしょうか。その背景には、単なる国民性の違いを超えた、強固な「法的な裏付け」と「空間思想」があるようです。

スウェーデンでは、換気能力に基づいて保育室の定員が厳格に定められ、室内のCO₂濃度が上昇すればモニターにより保育者に行動を促す仕組みがあります。園庭には子ども一人当たり40平方メートル、総面積3000平方メートル以上という研究に裏づけられた推奨基準が存在し、都市部でもゾーン別に段階的な目標値が設定されています。コロナ禍に「活動を屋外へ寄せる」ことが可能だったのは、平時からこうした環境基盤が整えられていたからだと思います。

さらに注目したいのは、2020年にスウェーデンで子どもの権利条約が国内法となったことです。ウプサラ市の2020年ガイドラインは、この法的転換を受けて見直されたものであり、都市開発の中で子ども・若者の屋外環境を改めて位置づけ直そうとする姿勢が読み取れます。とくに、遊びやレクリエーションの権利をうたう子どもの権利条約第31条は、園庭や地域の遊び環境を考えるうえで重要な意味をもっています。もちろん、国内法化だけで現実がすべて変わるわけではありませんが、それでも「子どもの環境を守ること」が、単なる好ましい配慮ではなく、社会の責任として明確になった意義は大きいと感じます。

日本でも2023年にこども基本法が施行され、子どもを権利の主体として位置づける歩みが始まっています。しかし、保育施設の室内の空気の質や屋外空間の面積・質を具体的に保障する制度設計は、いまだ十分とはいえません。スウェーデンの経験は、日本に何かを問いかけていると思います。次回は「室内の空気の質と換気の問題」に焦点を当て、保育室の空間構成と共に換気能力に基づく定員基準や空気質管理など、子どもの健康を建築から支える仕組みをご紹介します。

私たちは幼児教育用品を通じ、幼児教育の質の向上に貢献します。



フレーベル館



保育の矜持

一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

安家 周一



先日当園の保護者による保育参加のレポートが届きました。少し長くなりますがお読みください。

「準備を尽くし、手放す勇氣 一保育参加で見た矛盾を乗り越える強い信念」

本日は子どものコミュニティに参加するという貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。子どもたちが頃どどのように過ごしているのかを間近で見ることができ、大変有意義な時間となりました。以下、本日の学びをレポートとしてまとめました。門外漢ゆえに的外れな点や乱文があるかもしれませんが、ご容赦いただければ幸いです。

1. 「準備」と「自然な流れ」がつくる学びの場

最初に感銘を受けたのは、おはなし遊び会（一般的に劇の発表会などと呼ばれています）の準備段階で、ホールでのなりきり遊びから教室でのイメージづくりへと、先生方がごく自然に流れをつくっておられたことです。そこには、事前に多くの時間をかけて準備し、検討を重ねてこられた蓄積があると感じました。（カッコ内は筆者が加筆）

後になって気づいたのですが、ホールでのピアノ演奏は動物ごとに曲が変えられており、その曲を教室ではあえて説明することなく、先生が口ずさみながら子どもたちと遊んでおられました。誘導や結論ありきのコーチングではなく、子どもが自ら雰囲気を感じ取れるようにする“自然な環境づくり”に驚かされました。

2. 「意見を言える環境」が育む主体性

もう一つ特筆すべき場面は、年長タイムで絵本を決めている時のことです。「エルマーの冒険」にほぼ決まりかけていたところで、ある子どもが「エルマーは男の子一人だけだから嫌だ」と意見を述べました。

私は内心で「エルマーは何人いてもいいのでは」「女の子がやってもいいのでは」と思いました。おそらく先生も同じように感じられたはずです。しかし先生はその考えを口にせず、その子の意見をそのままみんなに共有し、「どうでしょうか?」と問いかけました。

子どもたちはその意見を受け取り、みんなでどうするかを考え始めました。

大人の世界では「若い人は自分の意見を言わない」と嘆く声をよく聞きます。正直、私もその一人でした。しかし本当に必要なのは嘆くことではなく、意見を言える環境をつくること、そして意見を言った人の思いがチームで共有されることだと気づかされました。たとえ自分の意見が採用されなくても、このプロセスがあるだけで満足度や納得感は大きく変わり、コミュニティの中での自分の居場所を感じられるのだと思います。

もし先生がその子に対し、意見を共有することなくすぐに解決案を提示していたらどうなっていたでしょう。おそらく「意見を言っても言わなくても結果は同じ」

というメッセージだけが残ってしまったはず。その積み重ねが子どもの人生に与える影響は計り知れません。

3. 「準備を捨てる勇氣」というリーダーシップ

一方で、先生が自ら解決案を提示しないという選択は、非常に勇氣のいることだとも感じました。「話が意図しない方向に進み、すべてが破算になってしまったらどうしよう」そんな不安が生まれるのは当然です。準備に時間をかけていればいるほど、その思いは強くなるでしょう。

しかし、チームを自分のコントロール下に置きたい気持ちと、メンバーに届けたいメッセージのどちらが大切かは明らかです。先生方は後者を選び続けている。その姿勢に深い学びを得ました。そして、準備が無駄になっても大丈夫だと先生が思えるような園の環境が、とても素晴らしいと感じました。

「安易な誘導で結果を求めないために入念な準備をする。しかし準備をすればするほど安易に誘導したくなる。」この矛盾を乗り越える強い信念を、先生方から感じました。

4. 結果よりもプロセスを重んじる文化の価値

園長が「私たちは結果を重視しません。プロセスにこそ意味があります」とおっしゃっていたことを思い出しました。今日はその言葉を“理念”としてではなく、“実践”として目の当たりにすることができました。一般的な会社であれば、チームリーダーが多くの時間をかけて準備したものが会議で白紙に戻れば、「無駄な時間を使った」と評価されるかもしれません。しかし本当に優秀なリーダーほど準備に時間をかけ、そして必要とあればその準備を捨てる覚悟を持っているのかもしれません。結果だけでなくプロセスの重要性を、今日の保育参加を通じて改めて考えさせられました。経営者・管理職としての在り方を問われる学びでもあり、一人の親としても大変貴重な経験となりました。

5. おわりに

親として学んだことや、先生にお聞きしたいことはまだまだたくさんありますが、長くなってしまいますので、また改めてお話しできる機会をいただければ幸いです。

「保育参観」を止め「保育参加」を始めて20年以上たちました。保護者一人に保育に参加いただき、共に園の大人として1日を経験していただく、その家庭にとってみると1年間でたった1日だけの保育参加の日です。たまたま父親の参加でしたが、ここに書かれている文章の隅々まで、私たちの保育に対する思想の一端が理解され、しみ込んでいる印象を強く受けました。園長は喋りもしますし書きもします。なんとか分かってほしいとの願いです。保育参加1日の経験で、願いが少し伝わった肌感がし、鳥肌が立ちました。

令和8年度事業計画案・収支予算案などを承認

●2.6第2回理事会

2月6日、第2回理事会がオンラインにて開催され、理事18名が出席しました。安家周一理事長が議長となり、議事録署名人は、大野教正理事、坂水かよ理事が選任されました。議事内容は以下の通りです。

【決議案件】

1. 令和8年度以降の収入の在り方の承認の件

令和8年度以降の収入の在り方について、これまでの検討経過と収支構造の現況を踏まえ、また公益法人として適切な運営を行うことを目指し、賛助会員制度の拡張を提案しました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

2. 基本財産の取崩の承認の件

議長と事務室より、令和3年度の公益認定を取消以降贈与をしている基本財産に関して、今後公益認定の申請を行うにあたり必要な会計処理を行いたい旨説明がありました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

3. 賛助会員入会の承認の件

事務室より、賛助会員入会の説明があり、デコボコベース株式会社の入会が満場一致をもって承認されました。

4. 令和7年度第3回評議員会開催の承認の件

議長より、令和7年度第3回評議員会開催について説明があり、審議の結果、満場一致をもって承認されました。

【報告案件】

1. 公益法人格再取得の件

安家理事長より、令和3年度の公益認定取消以降、一般財団法人として事業を継続しながら、公益法人格を再取得するために組織体制の整備に取り組んできたことの説明があり、令和9年度より公益法人としての活動を再開することを目指し、令和8年度夏を目途に公益認定の申請を行いたい旨の提案がありました。そして、公益法人格を再取得する意義と申請に向けた組織体制の強化状況について説明し、理事の皆様と公益認定申請を行うことを確認しました。

2. 業務執行理事からの執行報告の件

業務執行理事より業務執行状況について報告がありました。

宮下友美恵副理事長より、ECEQ[®]を学校評価における第三者評価に位置付けることとその根拠及び周知状況、令和7年度ECEQ[®]コーディネーター養成講座の開催報告、第16回幼児教育実践学会の開催報告ならびに第17回幼児教育実践学会の開催予定の告知、令和7年

度全国教育研究担当者会議の開催報告がありました。

安達讓副理事長より、令和7年度のオンデマンド研修の配信状況と今後の配信予定、教職員ページのアプリ化等令和8年度のゆたかなまナビシステム開発の方向性について報告がありました。

川名マミ副理事長より、令和7年度まなびの広場、こどもがまんなかしんぶんの発行状況と令和8年度の賛助会員入会申込受付状況、企業賛助の在り方の検討状況について報告がありました。

専務理事からは、事務室との連絡会の実施状況や公益法人格再取得に向けた準備状況について報告をしました。

安家理事長より、執行役員会の開催や公益法人格再取得に向けた収入の在り方の検討状況、関係各所との連絡調整状況について報告がありました。

●2.18第3回評議員会

2月18日、第3回評議員会がオンラインにて開催され、評議員12名が参加しました。安家理事長のあいさつの後、出席した評議員の互選により関岡貴之評議員が議長に選任され、議事録署名人に加藤義彦評議員、菌田直章評議員が選任されました。なお、議事内容の詳細は2月6日に開催された第2回理事会の承認・報告内容の通りです。

【決議案件】

1. 基本財産の取崩の承認の件

【報告案件】

1. 賛助会員入会の件

2. 令和8年度以降の収入の在り方の件

3. 公益法人格再取得の件

4. 理事会からの執行報告の件

●3.23第3回理事会

3月23日、第3回理事会が対面とオンラインの併用にて開催され、理事18名が出席しました。安家理事長が議長となり議事録署名人は松下瑞良理事、土居孝信理事が選任されました。議事内容は以下の通りです。

【決議案件】

1. 会員に関する規程の承認の件

事務室より、令和7年度第2回理事会にて承認された新たな賛助会員制度を反映した会員に関する規程の改訂案について説明がありました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

2. 旅費支給規程の承認の件

事務室より、物価高騰の状況を踏まえ、旅費支給基準の一部変更することについて説明がありました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

3. 令和7年度補正予算案の承認の件

事務室より、令和7年度補正予算について、当初予算からの変動理由等の説明がありました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

4. 令和8年度事業計画案の承認の件

岡本潤子教育研究委員長、高尾恵子広報委員長、専務理事より令和8年度事業計画について説明をしました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

5. 令和8年度収支予算案の承認の件

事務室より、令和8年度の収支予算について、概要の説明と正味財産増減計算書内訳表により公益法人として適正な収支構造となる見込みであることの説明がありました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

6. 令和8年度パートナーシップ協定別紙の承認の件

令和8年度パートナーシップ協定別紙について、令和7年度からの変更点について説明しました。審議の結果、満場一致をもって承認されました。

7. 令和8年度第1回評議員会開催の承認の件

議長より、令和8年度第1回評議員会開催について説明があり、審議の結果、満場一致をもって承認されました。

【報告案件】

1. 倫理規程及びガバナンス・コードの件

事務室より、より強固なガバナンス体制を構築した上で公益認定の申請を行うことを目指し、倫理規程及びガバナンス・コードを新たに設置することの報告がありました。

2. 業務執行理事からの執行報告の件

業務執行理事より業務執行状況について報告がありました。

宮下副理事長より、ECEQ®の今後の広がりを支えるために、ECEQ®実施要項、学校評価における第三者評価取扱要項、ECEQ®コーディネーター資格取得等要項などを整備したことや令和8年度におけるコーディネーターフォローアップ研修の支援の在り方について報告がありました。

安達副理事長より、3月より新たなオンデマンドコンテンツの配信を行っていることが報告されました。

川名副理事長より、全日本私立幼稚園PTA連合会に協力する形で3月にこどもがまんなかしんぶんの全園児配布を行ったことの報告がありました。

専務理事からは、事務室との連絡会の実施状況について報告しました。

安家理事長より、執行役員会の開催状況について報告がありました。

令和8年度事業計画書・収支予算書



(専務理事 加藤篤彦)

園の防災の悩みに向き合います

防災について何でもご相談ください

詳しくはこちらまで

☎0120-775-956

株式会社 ニシハタシステム



災害対策

業務改善





養成校教員からみた、ECEQ[®]の構造とECEQ[®]コーディネーターの役割

令和7年度より、ECEQ[®]コーディネーター養成促進のため、ECEQ[®]コーディネーター養成講座受講対象者を養成校教員や幼児教育アドバイザーにも広げました。令和7年度のECEQ[®]コーディネーター養成講座の受講者である、北海道文教大学准教授の渡邊亮宏氏に受講の一環で参加したECEQ[®]の各STEPでの経験を中心に養成校教員として感じたECEQ[®]の特色をご執筆いただきました。



「やってよかったECEQ[®]」につながる 学びのプロセス

北海道文教大学人間科学部こども発達学科 准教授／渡邊 亮宏

私は保育者養成校を卒業後、保育現場で実務に携わった後、現在の北海道文教大学人間科学部こども発達学科で保育者養成に携わっております。研究者という肩書きをいただきながらも、実践の語り手として、保育の楽しさや魅力を学生たちに伝えていきたいという思いを強く持っています。そのような立場でECEQ[®]コーディネーター養成講座に参加したことは、ECEQ[®]という取組を新たな角度から捉え直す貴重な機会となりました。

受講前から、ECEQ[®]が自園の保育を見直し、見つめ直していくための仕組みであることは理解していました。しかし、実際に講座を受け、実施園のプロセスに関わる中で、その意味や価値をより具体的に実感することができました。ECEQ[®]は、外部から何かを判断したり、正解を示したりするものではなく、保育者自身が日々の実践を振り返り、「自分たちの保育とは何か」を園として問い続けていくための学びの仕組みなのだ、体験を通して改めて認識しました。

例えば、ECEQ[®]のSTEP4（公開保育）の分科会の中で「子どもがなかなか片付けに向かわない」という声が上がった場面がありました。その場では、「どうすれば片付けるようになるのか」という問いのもと、「事前に声をかける」「片付けやすい環境にする」といった具体的な対策が検討されていました。

また、次の活動へスムーズに移るためには、一定の時間で片付けを終える必要があるといった現実的な事情も共有されていました。これらは日々の保育を進めていく上での、重要で切実な視点であると感じました。

その一方で、片付けの必要性を前提としつつも、私は「そもそも子どもにとって片付けるとはどのような意味をもつのだろうか」「その場面はどのように見えているのだろうか」と、問いを少し手前に置き直すことを意識しました。具体的な答えを示さないことには迷いもありましたが、その問いをきっかけに、参加した先生方の視点が、子どもの行動そのものから、環境や大人の関わりへと少しずつ広がっていくのを感じました。

ECEQ[®]では、「なぜそれを課題と感じているのか」「その状況を生み出している環境や大人の関わりはどうなっているのか」と問いを立て直していきます。子どもの行動そのものを問題とするのではなく、その背景を多角的に見つめ直す視点です。この問い直しの過程は簡単ではありませんが、分科会での対話を通して考えが深まり、広がっていく手応えがありました。

また、ECEQ[®]のプロセスでは、一日の保育全体を見続けるわけではなく、限られた時間や一場面を通して保育を捉え直すこととなります。その一瞬だけを見て問いを立てることに、最初は難しさも感じました。しかし同時に、その「一瞬」をどれだけ丁寧に見つめ、深められるかが、保育者にとって新たな気づきを生む契機になるのだと実感しました。一面しか見ていないからこそ、決めつけず、問いとして開いておくことの重要性を学びました。

今回、私は養成校教員という立場を活かし、朝から一日保育を見せていただく機会を得ました。これは時間的な余裕が比較的ある立場だからこそ可能だったことであり、園長職や管理職として多忙な先生方にとって、同様の関わり方が難しい現状も実感しました。その一方で、養成校教員がECEQ[®]に関わることで、現場と継続的につながり、ECEQ[®]後の振り返りや保育の見直しにも一助できる可能性を感じています。現場の先生方が、養成校教員の関わりに抵抗感なく受け入れてくださったことも、大変ありがたい経験でした。

実際にECEQ[®]コーディネーターとともに実施園に関わる中で、もう一つ強く感じたのは、「答えを言いたくない自分」との葛藤です。保育者が困っている姿を前にすると、「こうしたらよいのではないか」と方向性を示したくなる瞬間があります。しかし、その衝動を抑え、すぐに答えを渡さずに問いを投げ返し続けることこそがECEQ[®]の本質であり、その難しさと向き合うことがコーディネーターの役割なのだ学びました。

ECEQ[®]が「やってよかった」と感じられるのは、こうした対話のプロセスが、評価や批判ではなく、安心して語り合える場の中で行われているからだと思います。正解を示されるのではなく、自分たちの実践の価値や意味に自ら気づいていく。その積み重ねが、園としての学びや保育の質の向上につながっていくのだと感じています。

ECEQ[®]は一度きりの取組ではなく、園が学び続けるための文化を育てていく仕組みです。現場経験を持ち、実践を少し引いた位置から言語化できる養成校教員が関わることも、その一助になり得るのではないかと感じています。今後もECEQ[®]コーディネーターの一員として、現場に寄り添いながら、「やってよかったECEQ[®]」につながる学びのプロセスを支えていきたいと考えています。



Hot News

Vol.7



令和7年度ECEQ®実施状況

令和7年度は幼児教育の質向上を目指す全国各地の60の園をECEQ®実施園として認定し、これまでにECEQ®を実施した園はのべ466園となりました。ECEQ®実施園一覧は当機構HPに掲載しています。



ECEQ®を実施するには？

令和8年度のECEQ®実施申請の期間は令和8年5月末日までです。令和8年度のECEQ®実施申請の締切が迫っていますので、実施を希望する園は期日までにお手続きをお願いいたします。

申請方法の詳細は下記QRコードより当機構HPをご確認ください。

なお、令和8年度よりECEQ®実施申請のフォーマットが変更になりました。最新のECEQ®実施申請書のフォーマットは右記QRコードよりダウンロードいただけます。申請の際は「ECEQ®実施要項」もあわせてご確認くださいませようをお願いいたします。



ECEQ®を学校評価における第三者評価として取り扱うには？

まなびの広場2月号 (Vol.23) ECEQ® Hot News Vol.6でお知らせしたようにECEQ®を学校評価における第三者評価として位置付けることとしました。

令和8年度のECEQ®実施申請書では、学校評価における第三者評価としてECEQ®の実施を希望するか確認する項目を設けていますので、希望する場合はECEQ®実施申請書でお申し出ください。

実施を希望する園は当機構と直接第三者評価に関する契約書を取り交わし、ECEQ®実施後に当機構から交付される第三者評価報告書（園が記載する部分もあります）を園のホームページ等で公開していただきます。

なお、ECEQ®実施による第三者評価が、第三者評価受審加算、またはそれに相当する補助金の対象となるかに関しては各自治体の判断となりますので、園が所在する自治体とのご調整をお願いいたします。

これらの一連の流れを明記した、学校評価における第三者評価として取扱う際の要項として「学校評価における第三者評価取扱要項」を新設いたしましたので、希望する園はご確認ください。「学校評価における第三者評価取扱要項」とともに、ECEQ®が学校評価の第三者評価である根拠を示した資料を令和8年5月中に当機構HPへ掲載することを予定していますので、ぜひご活用ください。

ECEQ®ホームページはこちら
URL : <https://youchien.com/eceq/>



幼稚園・教育業界支援の経験と知識を、未来へ

YUBISUI GROUP

www.yubisui.co.jp

幼稚園・教育業界特有の事務負担を軽減し、「時間」と「笑顔」を生み出します



YUBISUI GROUP

税理士法人ゆびすい
行政書士法人ゆびすい

社会保険労務士法人ゆびすい
株式会社ゆびすいコンサルティング

司法書士法人ゆびすい登記センター
株式会社ゆびすい会計システム

機構からのお知らせ

【令和8年3月2日開始!】令和8年度第I期オンデマンド研修68コンテンツが配信中です。

ゆたかなまナビは全国の先生方によりよい学びの機会を提供することを目的に、各地区から提供された優良研修コンテンツを中心に様々な研修コンテンツを配信しています。

研修会場への距離や受講する時間が合わないなどのハードルを超えてだれでもいつでも学びたい時に学べる環境を整え、全国の園の質の高い教育・保育を支えてまいります。



オンデマンド研修概要

- 申込期間：～令和9年2月27日（土）17時
- 配信期間：～令和9年2月28日（日）17時
- 申込方法：教職員登録のうえ、ゆたかなまナビよりお申込ください。
- 研修スタンプ：研修受講後、3択5問の設問に回答し、80%以上の正解で研修スタンプを取得することができます。（追試は2回まで）
- 受講方法：お申込後、ゆたかなまナビMYページの配信視聴より受講ください。
- 受講料：研修によって異なります。ゆたかなまナビでご確認ください。
- 支払方法：クレジットカード決済／コンビニ決済
- その他：本研修は、施設型給付費等に係る処遇改善等加算及び、私立高等学校等経常費助成費補助金（一般補助）交付要綱別表第2の3の事由に基づく「幼稚園教員等の人材確保支援分」のうち、「幼児教育の質の向上のための処遇改善」に係る研修（私学助成園を対象とした処遇改善の要件に対応した研修）です。

講演名	講師名／肩書	時間数	俯瞰図番号
多様な子どもたちと向き合うためには何が必要なのか?	佐藤 一光 氏(東京経済大学経済学部教授)	1.5	A1
子どもの未来を育む食育の重要性	中山 玲子 氏(京都女子大学副学長,京都女子大学栄養クリニック副クリニック長)	1.5	A2
乳幼児理解 生活と遊びを支える保育者の関わり	瀧 薫 氏(大阪芸術大学教授、社会福祉法人子どものアトリエ理事長)	1.5	A2
就学前施設の保健指導～保健指導の苦手を克服しよう!～	船木 桃 氏(学校法人あけぼの学園あけぼの幼稚園看護師)、福島 美由紀 氏(社会福祉法人あけぼの事業福祉会豊中あけぼのこども園看護師)、小倉 理沙 氏(社会福祉法人あけぼの事業福祉会あけぼのぼんぼこども園看護師)	0.5	A2
災害対策における行政や地域社会との連携について	木宮 敬信 氏(常葉大学教育学部生涯学習学科教授)	1.5	A3
災害時保育教諭が『セルフコントロール』のためにできること2	山口 慎介 氏(おおいたパパくらぶ代表、大分県防災アドバイザー)	2.0	A3
「ほんとにいい?ECEQ®～現場は語る～」	箕輪 潤子 氏(武蔵野大学教育学部幼児教育学科教授)、阿部 能光 氏(認定こども園いぶき幼稚園園長)、杉本 圭隆 氏(むつみこども園園長)、伊藤 ちはる 氏(福島めばえ幼稚園副園長)、櫻井 喜宣 氏(さくら幼稚園園長)、池亀 千夏 氏(念法幼稚園教諭)、菅野 祐輔 氏(聖和幼稚園教務主任)、内山 敏和 氏(かもしようちえん副園長)	1.5	B2
ECEQ®講座 初級編～ECEQ®を解き明かす～	箕輪 潤子 氏(武蔵野大学教育学部幼児教育学科教授、武蔵野市子どもプラン審議会副会長 他)、藪 淳一 氏(ECEQ®評価チーム長)	1.0	B2
植物遊びのススメ	出原 大 氏(むぎの穂保育園園長)	1.0	B3
NEW これからの幼児教育への期待と課題	秋田 喜代美 氏(学習院大学文学部教育学科、学習院大学大学院人文科学研究科教育学専攻教授)	1.5	B4
労務上級1	安岡 知子 氏(株式会社福祉総研KYOSTAコンサルチーム、社会保険労務士法人人財総研 他)	0.5	B4
労務上級2	安岡 知子 氏(株式会社福祉総研KYOSTAコンサルチーム、社会保険労務士法人人財総研 他)	0.5	B4
労務上級3	安岡 知子 氏(株式会社福祉総研KYOSTAコンサルチーム、社会保険労務士法人人財総研 他)	0.5	B4
第一部:基調講演①「『幼児教育の重要性と質の評価について』～時代の流れの中で～」②「『園の特色と保育実践のつながりを考える』～保育の質と保育者の専門性～」 第二部:パネルディスカッション「『園を開く、保育を拓く、学びをひらく』～語り合いでつくる、わたしたちの園～」	第一部:①野澤 祥子 氏(東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター特任教授)、②箕輪 潤子 氏(武蔵野大学教育学部幼児教育学科教授) 第二部:野澤 祥子 氏(東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター特任教授)、箕輪 潤子 氏(武蔵野大学教育学部幼児教育学科教授)、興水 基 氏(認定こども園阿久根めぐみこども園園長)	第一部: 1.5 第二部: 1.0	第一部: B5 第二部: E7
ひとりの“やってみたい”から広がる学び—廃材造形活動を通して見た年少から年中への育ち—	中ノ子 寿子 氏(尚絅大学短期大学部幼児教育学科助教)、宇梶 達也 氏(荒尾第一幼稚園園長)、村田 夏海 氏(荒尾第一幼稚園教諭)	1.0	B5
5歳児(子どものやってみたいから生まれた『きらきらミュージアム』)～子どもと保育者と保護者とのつながりとは～	田島 大輔 氏(和洋女子大学人文学部こども発達学科助教)、名倉 一美 氏(佐賀大学教育学部幼小連携教育コース准教授)、高田 美波 氏(佐賀女子短期大学附属ふたばこども園保育教諭)、村岡 直子 氏(佐賀女子短期大学附属ふたばこども園副園長)	1.0	B5

講演名	講師名／肩書	時間数	俯瞰図 番号
保育者同士の対話を通じた多面的な子ども理解～保育観の芽吹き、深まり～	安達 讓 氏 (大阪教育大学非常勤講師)、谷邨 由麻 氏 (せりりひじり幼稚園教諭)、堀内 梨乃 氏 (せりりひじり幼稚園教諭)、福岡 加菜 氏 (せりりひじり幼稚園教諭)	1.0	B5
預かり保育における現状と課題～子どもにも大人にも「ちょうど良い時間」を目指して～	境 愛一郎 氏 (共立女子大学家政学部児童学科准教授)、古川 智規 氏 (認定こども園立花愛の園幼稚園フリー主任)、森 陽一 氏 (認定こども園立花愛の園幼稚園副園長)、大山 絵里奈 氏 (認定こども園立花愛の園幼稚園年少主任)、濱名 潔 氏 (認定こども園立花愛の園幼稚園法人本部副本部長)、濱名 浩 氏 (認定こども園立花愛の園幼稚園園長)	1.0	B5
地域に応じた園における持続可能な開発のための教育 (ESD) の実践	仙田 考 氏 (田園調布学園大学大学院人間科学部子ども人間学専攻准教授)、内野 彰裕 氏 (東京ゆりかご幼稚園園長)、白野 未侑 氏 (認定こども園七松幼稚園保育教諭)、勝見 慶子 氏 (認定こども園エンゼル幼稚園副園長)、亀山 秀郎 氏 (認定こども園七松幼稚園園長)	1.0	B5
質向上や働き方改善に向けた生成AI等の活用による保育記録—音声入力・保育カンファレンス・個別帳票・月末メッセージ—	高橋 健介 氏 (東洋大学福祉社会デザイン学部子ども支援学科、ライフデザイン学研究科生活支援学専攻子ども支援学コース准教授)、木村 創 氏 (認定向山こども園副園長)、渡邊 祐貴 氏 (認定向山こども園保育教諭)、上石 恭太 氏 (上越教育大学附属幼稚園非常勤講師)	1.0	B5
豊かな感性育てを目指す実践の振り返りから架け橋期への願いと試み	平野 良明 氏 (札幌国際大学名誉教授、北海道教育委員会幼児教育推進センターアドバイザー)、中山 敦子 氏 (大地太陽幼稚園園長)、前園 和寿 氏 (大地太陽幼稚園教頭)、高橋 春香 氏 (大地太陽幼稚園主任教諭)	1.5	B5
表現を支える保育者のまなざし～一人一人の良さがつながる表現活動を通して～	井内 聖 氏 (北海道文教大学客員教授)、渡邊 日向子 氏 (恵庭幼稚園年少学年主任)	1.0	B5
帰巢性を育む保育～4年間続き続けた「つながる」保育の軌跡から～	門田 理世 氏 (西南学院大学人間科学部児童教育学科、西南学院大学大学院人間科学研究科教授)、岡田 朱紀 氏 (認定こども園白梅幼稚園園長)、村山 祐子 氏 (認定こども園白梅幼稚園副園長)、岩崎 ちどり 氏 (認定こども園白梅幼稚園保育教諭)、池田 美貴 氏 (認定こども園白梅幼稚園保育教諭)	1.0	B5
乳児の情緒の揺れについて	安家 周一 氏 (梅花女子大学心理こども学部こども教育学科教授)、影山 佳代 氏 (あけぼの保育園園長)、宮脇 知紘 氏 (あけぼの保育園リーダーチーフ)、松尾 実佑子 氏 (あけぼの保育園チーフ)、武井 雛莉 氏 (あけぼの保育園保育士)	1.0	B5
『園』の『庭』に溢れる、『好』きと『奇』なるものに躍る『心』～未来は僕らの庭の中～	岩崎 巧 氏 (森のあそびば はれのちはれ代表、桃山学院大学非常勤講師)、三倉 敏浩 氏 (あけぼのぼんぼこども園園長)、湯浅 優典 氏 (せりりひじり幼稚園学年主任)	1.0	B5
学童保育と預かり保育を通して見えた 子ども達の心の育ち	渡邊 堯宏 氏 (北海道文教大学人間科学部こども発達学科、北海道文教大学大学院こども発達研究科准教授)、大塚 武 氏 (はやきた子ども園学童支援員)、吉田 圭介 氏 (はやきた子ども園学童支援員)、伊藤 未来 氏 (恵庭幼稚園教諭)	1.0	B5
大人もこどもも【いきるとは】を考える	田中 住幸 氏 (札幌大谷大学短期大学部保育科学科長 教授)、司馬 政一 氏 (幼保連携型認定こども園せいめいのもり園長)、田口 詩織 氏 (幼保連携型認定こども園せいめいのもり乳児部リーダー)、仲山 夢乃 氏 (幼保連携型認定こども園せいめいのもり教諭)	1.5	B5
トップリーダー同士がトップ・マネジメントの実践について学び合う場づくり	秦 賢志 氏 (大阪教育大学講師)、阿部 能光 氏 (認定こども園いぶき幼稚園園長)、船瀬 紗代子 氏 (幼保連携型認定こども園西須磨幼稚園副園長)、北島 孝通 氏 (幼保連携型認定こども園庄内こどもの杜幼稚園園長)	1.5	B6
NEW 保育の質を高めるための園マネジメント	岩立 京子 氏 (東京学芸大学名誉教授)	1.5	B6
NEW Z世代の理解と新任保育者が生き生きと働ける職場づくり	金城 悟 氏 (東京家政大学家政学部児童学科教授)	1.5	B6
園らしい人材を育成する キャリアパスの考え方	杉村 基樹 氏 (株式会社ネクサス代表取締役)	1.0	B6
労務初級1	安岡 知子 氏 (株式会社福祉総研KYOSTAコンサルチーム、社会保険労務士法人財総研 他)	0.5	B6
労務初級2 ver.2	安岡 知子 氏 (株式会社福祉総研KYOSTAコンサルチーム、社会保険労務士法人財総研 他)	0.5	B6
労務初級3	安岡 知子 氏 (株式会社福祉総研KYOSTAコンサルチーム、社会保険労務士法人財総研 他)	0.5	B6
職場における同僚性	飛田 隆 氏 (茨城キリスト教大学文学部児童教育学科児童教育コース教授)	2.0	B6
新任保育者の育ちを支えるために一とものに学び、育ち合う園を目指して一	安達 讓 氏 (せりりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園園長)	1.0	B6
ミドルリーダーの役割とマネジメント	佐々木 晃 氏 (鳴門教育大学大学院学校教育研究科幼児教育コース教授)	1.5	B6
幼稚園の歴史から学ぶ幼児教育【改訂版】	塩路 晶子 氏 (鳴門教育大学高度学校教育実践専攻幼児教育コース、鳴門教育大学教育実習総合支援センター教授)	1.5	C1

	講演名	講師名／肩書	時間数	俯瞰図 番号
	「保育の地平へ」乳幼児期から小学校への育ちの連続性	安家 周一 氏 ((一財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長)	1.5	C2
NEW	VUCAの時代を生き抜く力を育むために ～アタッチメントが拓く子どもの未来&非認知的能力が育つ乳幼児保育とは～	遠藤 利彦 氏 (東京大学大学院教育学研究科教授)、井桁 容子 氏 (保育SOWラボ代表、乳幼児教育実践研究家)	2.0	C3
	学校法人会計の基礎知識	守屋 俊晴 氏 (公認会計士・税理士守屋俊晴事務所所長)	1.0	C3
	学校法人会計 (中級編)	守屋 俊晴 氏 (公認会計士・税理士守屋俊晴事務所所長)、石橋 もと子 氏 (石橋もと子税理士事務所税理士)	1.5	C3
	学校法人会計 (上級編)	守屋 俊晴 氏 (公認会計士・税理士守屋俊晴事務所所長)、石橋 もと子 氏 (石橋もと子税理士事務所税理士)	1.0	C3
	中等・高等教育の本質から見通す幼児教育の未来—子どもの健やかな育ちの現在と未来を考える—	大澤 力 氏 (東京家政大学大学院人間生活学総合研究科児童学児童教育学専攻、東京家政大学大学院人間生活学専攻客員教授)	1.0	D1
	生き物との関わりから見る「愛着」とは	渡邊 はるか 氏 (別府大学短期大学部初等教育科講師)	1.0	D1
	幼児期の造形表現	佐川 早季子 氏 (京都教育大学教育学部幼児教育専攻准教授)	2.0	D1
	記録の重要性 その方法と活かし方	伊藤 ちはる 氏 (福島めばえ幼稚園副園長)	1.5	D2
	「子どもが“ケア”する世界」を考える	岩田 恵子 氏 (玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授)	1.0	D2
NEW	発達障害傾向がある子どもの偏食とその対応	水野 智美 氏 (東京科学大学リベラルアーツ研究教育院教授)	1.0	D3
NEW	特別支援教育からインクルーシブな保育へ～幼稚園の保育の見直し～	若月 芳浩 氏 (玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授)	1.5	D3
	気になる子どもへの関わり方～親子を支えるためにできること～	今村 幸子 氏 (鹿児島女子短期大学児童教育学科講師)	1.5	D3
	自ら気づいて動ける園児を育てるクラスづくりと気になる子への対応	福岡 寿 氏 (日本相談支援専門員協会名誉顧問、厚生労働省障害支援区分運営適正化委員会座長)	1.5	D3
	特別なニーズを持つ親子の心理と支援 対象の広がりに応じる教育・保育	伊藤 千裕 氏 (株式会社東京ソーラー心理士、(公社) 静岡県私立幼稚園振興協会子育て支援カウンセラー 他)	2.0	D3
NEW	乳幼児期のやりたい気持ちを大切にしたい保育環境とは	仲本 美央 氏 (白梅学園大学子ども学部子ども学科教授)	1.0	D4
NEW	「幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について」	眞田 貴弘 氏 (大分県教育庁幼児教育センター指導主事兼課長補佐(総括))	1.5	E1
NEW	幼児理解と援助に役立つ観察と記録	佐々木 晃 氏 (鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授)	1.5	E6
	次の保育につながる記録のあり方と保育の振り返り	上村 裕樹 氏 (東北福祉大学教育学部教育学科初等教育専攻准教授)	1.5	E6
	園のよさ・思い・願いをつなぐ園内研修と評価	箕輪 潤子 氏 (武蔵野大学教育学部幼児教育学科教授)	1.5	E7
	保幼小の連携・接続・架け橋プログラムの理解	松寄 洋子 氏 (明治学院大学心理学部教育発達学科教授)	1.5	F1
	保護者のクレームの扱い方	小崎 恭弘 氏 (大阪教育大学健康安全系教育学部教員養成課程家政教育部門教授)	1.5	F1
	口頭発表「こどもの困り感に焦点を当てた個別の援助について～就学相談に向けた保育と療育の連携～」、基調講演「『個性をいかして豊かに生きる』～感覚統合療法の視点から～」	口頭発表: 小川 瞳 氏 (久留米天使こども園保育教諭)、早川 成 氏 (久留米天使こども園園長) 基調講演: 土田 玲子 氏 (NPO法人なごみの杜代表理事、日本感覚統合学会前会長 他)	2.0	F1
	幼保小の連携・接続～豊かな幼児期の教育を小学校教育につなぐために～	福田 洋子 氏 ((公社) 全国幼児教育研究協会茨城支部長、茨城県幼児教育アドバイザー)	1.5	F1
	子どもの育ちを下支えする連携と心理・保育の協働による教育相談の理論と実践	伊藤 千裕 氏 (株式会社東京ソーラー心理士、(公社) 静岡県私立幼稚園振興協会子育て支援カウンセラー 他)	1.5	F1
NEW	子どもの育ちを支える保護者支援	木村 直子 氏 (鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授)	2.0	F2
	親を支える保護者支援: 発達が気になる子の保護者に寄り添うために	嶋野 珠生 氏 (富山短期大学幼児教育学科教授)	2.0	F2
	子どもが育つまちをつくる～園が持つ役割と可能性～	井内 聖 氏 (北海道文教大学客員教授)	1.5	F3
	先生こそ知りたい「対話によるアート鑑賞」とは?	大森 久美 氏 (静岡聖光幼稚園アトリエリスタ)	1.0	F3
	「ホンモノ」に出会える美術館でワクワクが止まらない!～幼児期に五感をフルに使ってイメージを広げよう～	榎本 寿紀 氏 (インディペンデント・エドゥケーター、元大分県立美術館(OPAM) 教育普及室室長)	1.5	F3

ゆたかなまナビをチェックして、研修の受講をご検討ください!

現在配信中のコンテンツにはすでに都道府県私立幼稚園団体等で配信したコンテンツも含まれておりますので、お申込時にはご注意ください。詳細については右記のQRよりご確認ください。

新たな研修コンテンツの配信開始日は下記の通りです。

▼令和8年度研修コンテンツ配信開始日

第Ⅱ期 令和8年6月1日(月)～/第Ⅲ期 令和8年12月1日(火)～



機構からのお知らせ

令和8年度 賛助会員企業について

子どもたちの幸せと乳幼児教育の発展を願って設立された当機構の事業趣旨及び事業内容に賛同いただいた企業・団体の皆様に、賛助会員としてご入会いただいております。

Chubb 損害保険株式会社	損害保険ジャパン株式会社	東京海上日動火災保険株式会社	三井住友海上火災保険株式会社
株式会社 GakkenSEED	株式会社 フレーベル館	株式会社 ジャクエツ	ひかりのくに株式会社
株式会社 世界文化 ワンダーグループ	チャイルド本社	株式会社 フォトクリエイト	株式会社 ジャパンリリーフ
日本総合サービス株式会社	株式会社 福音館書店	株式会社 みつばモビリティ	株式会社 エンファム
税理士法人 ゆびすい	株式会社 矢部プロカッティング	株式会社 ニシハタシステム	VISH 株式会社
株式会社 エコテック	有限会社 さわだスポーツクラブ	デコポコベース株式会社	

令和8年度賛助会員（園児の保護者等）入会について

当機構の賛助会員入会の御礼として配布しております「こどもがまんなかしんぶん」は、乳幼児教育の大切さや、ご家庭での時間を豊かにする充実した情報をお届けしており、多くの方に反響をいただいております。

賛助会員への入会は順次受け付けておりますので入会をご希望の際は下記QRコードより入会方法等の詳細をご確認ください。ご不明な点等ございましたら当機構までお問い合わせをお願いいたします。

これからも子どもたちが幼稚園・こども園等やご家庭で過ごす時間がより豊かなものとなるよう事業をおこなってまいりますので、是非ご活用いただけますと幸いです。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

【こどもがまんなかしんぶんについて】

■会費：1口・年間250円

■入会特典：年10回

（紙媒体6回、デジタル配信4回／8月・3月休刊）



【令和8年度賛助会員入会申込書はこちら】

園の未来をインクルーシブにデザインする

～園内で児童発達支援事業を始める新しいパートナーシップ～



空き教室の有効活用！ 療育プログラムと万全の運営支援！

児童発達支援ハッピーテラスキッズ 運営本部：デコポコベース株式会社
TEL：03-6809-6940 担当/甲斐

DECO
BASE
BOCO

詳細はこちら

